

第 1 2 回岐阜県都市公園活性化懇談会 議事要旨

日 時：令和 3 年 2 月 9 日 (火) 10:00～11:30

会 場：県庁 4 階 特別会議室

1 事務局説明

- ・「次期戦略における各施策」及び「評価指標」について、事務局が説明

2 意見交換

○意見

- ・岐阜県は、県内のどこに何があるか思い浮かべると、すごく中身のあるエリアだと思う。
- ・周辺地域を含めてコンテンツを表現できると、今まで岐阜県を知らなかった人にとっても、岐阜県が極めて魅力的なものになるのではないか。
- ・小さかったり、堅苦しかったりする一般的なイメージを脱却するような公園の表現をしていかないと、理解されないのではないか。
- ・アクティビティが多く、楽しい公園がたくさんあるということを発信し、県外からの集客も前提に、コンテンツを磨きながら表現していくことが重要である。
- ・将来プラットフォームになるようなアプリケーションの活用を重点的に考えていくと良い。
- ・これからの公園が果たす役割は、地域の方々のレクリエーションの場から、戦略的な観光拠点や、働く場に変化しつつある。
- ・これからの一番大事な課題として、それぞれの公園を個性的に売っていくことが必要。
- ・一般の方にとっての目的性を明確にする必要がある。それぞれの公園をどう利用するかという点で個性を出していく必要がある。
- ・バラに関する商品を花フェスタ記念公園で発売するなど、ブランド戦略的な通販を考えた方が良い。
- ・当面の取組みとして、一つは第一次戦略から継続してコンテンツの充実が必要。もう一つは、民間による柔軟な公園利用ができるような運営をすることが重要。
- ・自走型運営として、単に民間に入ってもらっただけでなく、いかに公園が使いやすい空間になるかという観点を軸に置き、工夫を重ねていただきたい。
- ・ひとつひとつの公園の個性を磨き上げると同時に、新しい岐阜モデルのライフスタイルをどのように提案できるかという点が重要になると思う。
- ・周辺地域の観光周遊に対し公園が中核となって機能を果たしていくという点を戦略に記載すべきではないか。
- ・令和 7 年度に向けた入園者数の目標は、高く設定してもよいと考える。
- ・アウトプット指標に、民間活力をいかに導入するかという観点で、目標を考えてほしい。

- ・コロナ禍のこの時期に戦略を制定し、集客を受け入れる体制をとって、爆発的な人の動きをどんどん吸収できるようになると良い。
- ・岐阜県は、高速道路網やリニアを考えると、東京、大阪、名古屋、北陸へ行ける全国で一番良い場所である。
- ・岐阜県の清流は、世界に発信できる非常に大きなポイント。この情報発信をアイデア、機動力、PR力など民間と連携してやっていきたい。
- ・県営都市公園は全て高速道路網と近い所にある。ネクスコ中日本と連携して、広域観光につなげる要素が十分にある。
- ・オール岐阜の共通テーマを全ての公園が共有して全国にPRするとインパクトがある。
- ・それぞれの公園の個性を活かしながら岐阜県らしいライフスタイルの発信をすることが大事である。岐阜県の個性は清流の国であり、このキーワードをどう活かしていくかが重要である。
- ・SDGsという言葉があって社会的貢献が入っているが、社会・経済・環境という3価値の同時実現が重要である。
- ・自然の多い地域と交通網等が整備された地域との間を繋ぐ仕組みがない。着地の観光商品を作り、広域の観光商品を送りあえる仕組みを作り、民間活力を導入できるとよい。
- ・アウトカム指標に環境を入れ、環境、社会、管理の3つの指標で公園を評価すべきである。
- ・経営目線ではなく、県民目線で公園を考えることが第一の基本である。
- ・内容がわかりやすく、更に深い情報が知れるような公園名称であることが重要である。
- ・都市部から人を呼ぶ以外に公園の活性化はあり得ないと思う。また、ターゲットをどこから連れてくるかという観点に絞ると、いろいろな戦略が見えてくる。
- ・ブランド戦略として、各公園のブランドや価値をすぐに認知できるようにするため、公園の名前は非常に重要であり、ニックネームを作るのもよい。また、岐阜県の知名度が上昇するようPRの強化も必要である。
- ・情報発信のみでなく、公園や人々の生活が絶えず変化することを意識し、SNSと連携して情報が連鎖するようなプロモーション戦略を絶えず考えてほしい。
- ・“清流の国”というブランディングをしてきたが、更に、都市公園のブランド化を具体的に考えていくべき。また、東西の横軸をどう強化していくかが課題である。
- ・大きな流れとして、with コロナから after コロナへ、色々な展望がある。デジタル、環境SDGs、地方分散もある。東海環状西回りやリニアの開通もあり、受け皿として対応する中で、公園の活性化戦略を考えていくべき。